



紅白の花で飾られた本堂で厳かに営まれたお会式法要

願 満

復刊第十六号
2012年12月
身延別院発行
〒103-0001
東京都中央区
日本橋小伝馬町3-2
Tel 03-3661-3996
Fax 03-3663-2766

日蓮聖人の七百三十一遠忌

お会式法要

身延別院のお会式法要が十一月三日に営まれました。当院の檀信徒約八十人が本堂に参列し、日蓮聖人に報恩感謝のお題目を唱え、よりよい社会を建設するという日蓮聖人から託された使命に今一度誓いを立てました。

お会式とは、日蓮聖人がおなくなりになられた十月十三日を中心に、各地の日蓮宗寺院、教会、結社で行われる法要です。ご入滅の地・東京の池上本門寺や山梨の総本山身延山久遠寺で行われる法要が広く知られていません。日蓮聖人の教えに出会えた喜びをかみしめ、お祖師さまへの報恩を捧げる一日でもあります。今年は日蓮聖人の七百三十一回忌となりました。

当院では毎年十一月三日・文化の日にお会式を行っています。今年は朝から青空の広がる爽やかな天気にも恵まれました。境内の入り口には「願満日蓮大菩薩」と書かれた二本の幟が立てられ、お会式桜を模した二つの万灯が彩りを添えました。また、本堂の正面には高さ三メートルの角塔婆が建てられました。本堂内の願満日蓮大菩薩の御手から伸びている手綱がこの角塔婆に結びつけられ、願満日蓮大菩薩とのありがたいご縁を結ぼうと、多くの参列者が手綱に触れていました。

法要は午後一時から本堂で営まれ、藤井住職が日蓮聖人の教えに対して感謝の言葉を述べました。参列者は法華経のお自我偈などを読誦し、お題目を唱えました。今年は参列者全員に対してご祈祷が行われ、七人の修法師がふるう木剣の音が本堂全体に響きわたりました。

(五ページに特集、平山)



左から日像上人、日蓮聖人、日朗上人のご本尊。右は妙感寺のご住職

御首題を いただく旅

第十六回 滋賀県近江八幡市 妙感寺

私がいただいた日蓮宗のお寺の御首題は千四百を超えました。これだけお寺を参拝していますと、中にはグッドタイミングというか、不思議な出会いというか、ご縁を感じるお寺があるものです。十月の休日を利用して訪ねた滋賀県近江八幡市の妙感寺というお寺もその一つでした。

千葉県市川市の郊外にある自宅を朝五時に出発し、新幹線のものぞみ号、こだま号、在来線の普通電車乗り継いで、近江八幡駅に着いたのは午前九時過ぎ。レンタカーを借りて、最初に向かったのが妙感寺です。玄関の呼び鈴を押すと、ご住職が姿を見せ、「さあ、こちらにどうぞ」と客殿に案内してくれました。そこにはお寺の総代さんをはじめ檀信徒の役員さんたちが十人以上ずらりと畳に座って並んでいました。部屋の一番奥には、お題目の書かれた曼荼羅ご本尊がいくつも掛けられていました。

「平山さん、どうぞ近くまで進んでご覧になってください。中央が日蓮聖人ご真筆のご本尊、その右が日朗上人のご本尊、その右は大覚僧正のご本尊、日蓮聖人の左側は日像上人のご本尊、波の題目です」とご住職が説明してくれました。ご住職によると、この日は一年に一度の寺宝のお風入れ(虫干し)の日で、午前中だけ風に当てるとのことでした。私はあらかじめ参拝する趣旨の連絡をお寺に入れておきましたがお風入れのことは何も知らなかったため、本当に驚きました。宗宝に指定されている日蓮



聖人のご真筆をはじめ、そうそうたる顔ぶれのお弟子さんたちのご本尊を、こんなに間近に見ることができたのですから。

妙感寺はもと真言宗のお寺でしたが、日像上人が永仁四年(一二九六年)、ここに立ち寄られて改宗、山寺号を改めたのだそうです。「本当によい日に来られましたね。以前は夏にお風入れをしていたのですが、お施餓鬼で忙しい時期と重なっていたので、数年前からこの季節に変更したのですよ」とご住職。私は、日蓮聖人の曼荼羅ご本尊を前にして、役員さんたちに見守られる中、お自我偈やお題目を唱えました。日蓮聖人に直接聞いてもらっているような気持ちになり、身が引き締まる思いでした。すばらしい思い出になりました。

(平山徹・新聞記者)

参列者の所願成就を祈る お会式法要



参列者全員に対して行われたご祈祷(上)

順番に焼香をする参列者(下右)

法要後に行われた藤井住職の法話(下左)



十一月三日に営まれたお会式では、本堂内がお会式桜を模した薄紙の花で飾られました。檀信徒さん有志がこの日に向けて準備してきたもので、ピンクや白の合わせて約二千六百個の花が華やかな雰囲気を作り出していました。

平成十九年に復活したお稚児さん行列が、今年中止となりました。例年、お稚児さんの支度会場になつている十思スクエアが工事中で、当院周辺の新たな支度会場の確保が困難だったためです。「今年はお稚児さん行列の募集はないのですか」といった問い合わせをいただきましたが、来年は再会する予定です。

例年ですと、お稚児さんに対するご祈祷が行われていましたが、お稚児さんが中止となったこともあり、今年はお稚児さんに対してご祈祷が行われませんでした。当院の藤井教祥副住職はじめ七人の修法師が、参列者一人一人の身体健全、所願成就などを祈りました。



朝から青空が広がったお会式当日

被災地の保育園から感謝状

副住職が届けた義援金のお礼に



東日本大震災の被災地・岩手県陸前高田市の竹駒保育園から、このほど感謝状が届きました。当院の藤井教祥副住職が今年七月、日蓮宗東京都東部宗務所管区の青年僧、西村寛隆、甲州晶洋の二師と共に同保育園を訪れ、義援金十万円を手渡しています。感謝状は、その義援金に対してお礼の言葉を寄せたもので、園長の村上和恵さんがハガキにつづったものです。保育園の様子を撮影した写真も

添えられ、「本当に感謝の気持ちでいっぱいです」などと感謝の言葉が書かれていました。陸前高田市には、当院とゆかりの深い岩手県遠野市法華寺の阿部是秀上人が主宰している法華の道場(高田道場)がありました。しかし、大震災の津波で全て流されてしまい、現在は民家を借りて運営しています。当院の副住職はこの道場を拠点にして高田市内をまわりました。七月に訪れた際は、竹駒保育園のほか、

同市の広田町自治会長にも義援金十万円を手渡しています。当院がこれまでに届けた義援金は約六十万円になりました。今回、保育園からこのような感謝状が寄せられ、被災地の支援活動について気持ちを新たにしたいところです。これからも被災地支援の活動は続けていきます。支援活動の内容は、檀信徒の皆さまに一つ一つ報告をしてまいりますので、今後とも義援金の協力をよろしく願います。

竹駒保育園の村上園長(前列左から2番目)はじめ被災地の皆さん(今年7月)



被災地の再建について地元の人たちと話し合う副住職





青年会が縁結びの集い



青年会のメンバーがつくったポスター

身延別院青年会は十月二十七日、「日本橋七福神めぐり合コン」を開きました。若者にお寺へ足を運んでもらい、お寺を縁にして、男女の縁を結ぼうという試みで、青年会が初めて企画しました。

青年会のメンバーが未婚の友人にチラシを配ったり、フェイスブックで参加を呼びかけたりした結果、二十四歳から四十歳までの男女二十四人(男性十二人、女性十二人)が参加しました。当院からやや離れた世田谷区や千葉県船橋市からの参加もありました。

参加者は正午に当院本堂に集合し、まず良縁成

就のご祈祷を受けました。午後一時から青年会スタッフの案内で、日本橋七福神をめぐりました。午後五時半からは、日本橋のスペイン料理店で懇親会を開き、青年会スタッフと合わせ約四十人がすっかり打ち解けた様子で語られています。その結果、二組のカップルが生まれましました。

参加者のほとんどが「お寺とはまったく縁がなかった」という若者たちでしたが、「このような機会が今度またあったら、その時も参加したい」と話す人もいました。青年会では今後も開催していくことを検討しています。

べつたら市に今年も豚汁の店



豚汁いかがですか。道行く人に声をかける青年会のメンバー

身延別院青年会が十月十九、二十日、東京・日本橋本町を中心に開かれた「べつたら市」に「豚汁」の店を出しました。

べつたら市は江戸時代中期から続いている伝統の行事。毎年十月二十日の恵比寿講にお供えをするため、前日の十九日に市が立ち、野菜や魚、神棚などが売られるようになったことが起源とされています。毎年三百軒以上の露店が並び、正午から午後十時までの間、たくさんの人でにぎわいます。

青年会は関係者の尽力で平成二十一年に初めて出店し、「揚げたこ焼き」の店を出しました。今回は昨年好評だった豚汁の店を出すことにし、藤井教祥副住職を中心に青年会のメンバーが、一日百食を二日分用意しました。当日はメンバーが道行く人に声をかけ、注文が入るたびに豚汁を温めてお客さんにお椀を手渡していました。一食三百五十円で、二日間で二百食すべてを売り切り、約七万円の収益がありました。収益金は子育て支援活動に充てる予定です。ご協力いただいた檀信徒の皆さん、ありがとうございました。



ときおり豚汁をかきまぜて火加減を調節しました

お会式法要の花作り奉仕

身延別院の檀信徒さん有志が十月二十、二十一日の両日、本堂地下ホールで、お会式法要の花作りを行いました。お会式法要では毎年、お会式桜を模して、ピンクと白の薄紙で作った花を本堂の内外に飾りつけます。その花をみんなで手分けして作り、竹や万灯にくくりつけます。二日間で作った花は、ピンクの花が約二千二百、白が四百、合計で約二千六百でした。

お手伝いいただいた有志の皆さんは以下の通りです。

阿久津一美、阿久津喜美子、石渡日出子、伊東精子、今井善子、勝見登志子、黒石鈴子、小島貴恵子、小林聡子、佐竹美智子、杉山尊子、寺久保トシ子、埴多賀子、林好江、平山徹、工藤祐子(敬称略)。ありがとうございました。



本堂地下でお会式の花を作る檀信徒の皆さん

ランドセル無料配布します

身延別院青年会は来年四月に小学一年生になる子どもたちにランドセルを無料配布します。ランドセルは、当院の檀信徒で都内在住の篤志家が青年会の子育て支援活動を知って、子どもたちの健やかな成長に役立ててほしいとして、寄贈してくれたものです。

昨年十二月に初めて無料配布を行い、十二人の子どもたちがランドセルを受け取りました。今回は二年目(二回目)の取り組みになります。当院の檀信徒さんまたはそのお知り合いで、お子さん、お孫さんに、青年会のランドセルをプレゼントしてみたいという方、ご連絡をお待ちしています。

豆入れ奉仕のお願い

来年の追儺式(節分の豆まき)で用いる豆の袋詰め作業を、一月十九、二十日に行います。一時間でも二時間でも、都合のつく時間でもかまいません。お手伝いいただける方、どうぞよろしく願います。

秋季彼岸法要に五十人

身延別院の秋季彼岸会施餓鬼法要が九月二十五日午後一時から、本堂で営まれました。檀信徒約五十人が参列しました。ご先祖をはじめ、ご縁のあった方々の塔婆をご供養しました。

今後の予定

- 十二月 一日(土) 願満祖師終日お開帳
 十五日(土) 十三日講法要並法話
 午後一時より
 二十九日(土) 甲子 納めの大黒天祭
 午後二時より
 一月 一日(火)〜三日(木)
 太歳三ヶ日御祈祷、終日
 初〜中旬 新春初詣団参 中山法華経
 寺荒行堂ほか。詳細後日
 十三日(日) 十三日講法要並法話
 午後一時より

編集後記

願満十六号をお届けします。今回は、お会式法要の様子と、被災地の保育園から届いた感謝状について写真特集を組んでみました。特に保育園の園長先生の言葉は感謝の気持ちが伝わってくるものでした。副住職は、「これから被災地支援を続けていきたい」と決意されています。私も応援したいと思いました。

今回の発行は節分後を予定しています。

(平山)